

今月の星空



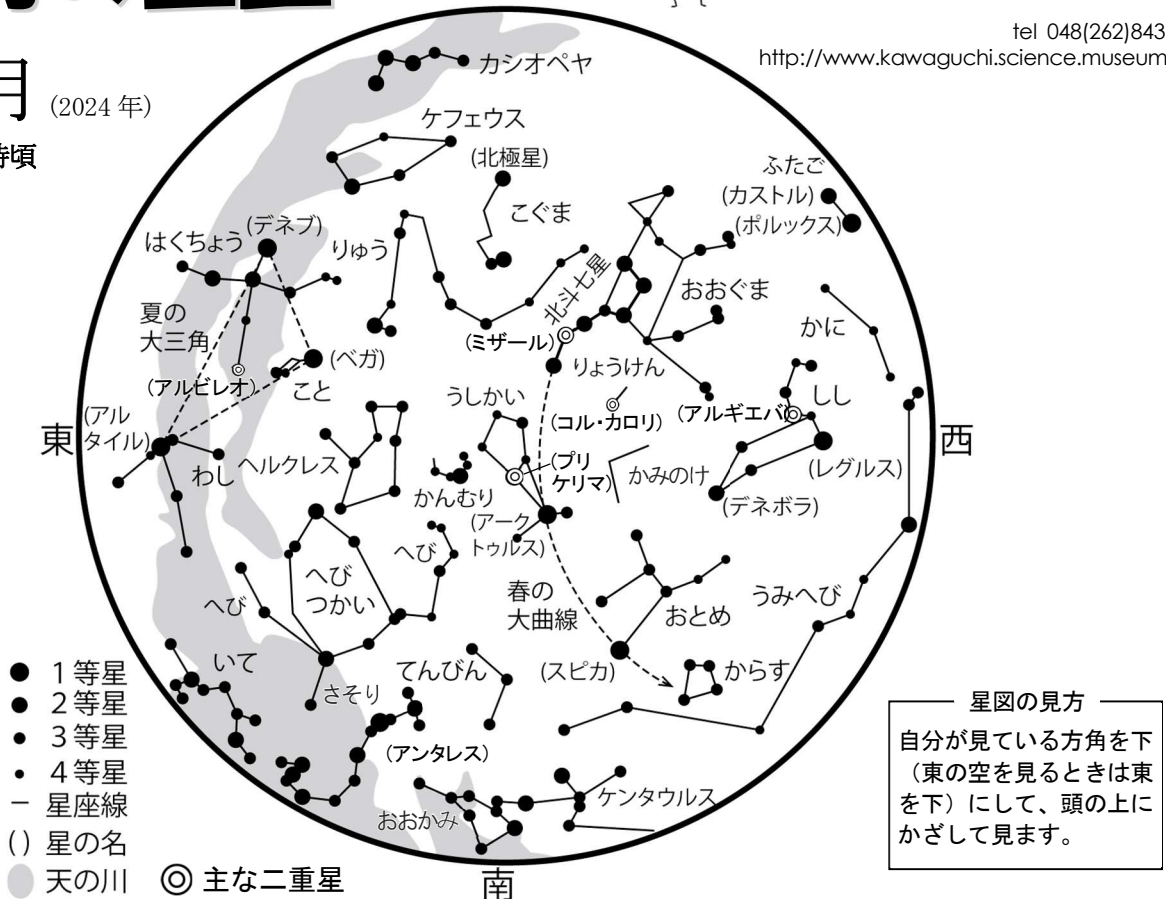
川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum



tel 048(262)8431

<http://www.kawaguchi.science.museum/>

6月 (2024年)
中旬 21 時頃



月 齢 ● 新月 6日、● 上弦 14日、○ 満月 22日、● 下弦 29日

惑星情報 火星 日の出前 東(うお→おひつじ座 1等) 土星 日の出前 南東(みずがめ座 1等)

木星 日の出前 南東(おうし座 -2等) ※下旬以降

☆雨ときどき「アークトゥルス」

梅雨入りの頃、西に傾く春の星座と東から昇る夏の星座が見られ、星空も季節の変わり目です。春の星座ではうしかい座のアークトゥルスが、夏の星座ではこと座のベガが、共に約0等の明るさで輝きます。頭上で目立つはずのアークトゥルスですが、夏至(21日)を迎え日暮れの遅い時期であることと梅雨空が重なり、目にする機会の少ない星かもしれません。ただし、川口市から見られる恒星(太陽と高度が低いカノープスを除く)の中では、全天一のシリウスに次ぐ明るさを誇る星です。オレンジ色が特徴で、麦の穂が実る頃に空高く見られることから「麦星」、また季節柄「五月雨星」などと呼ばれます。

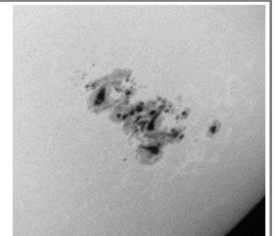
☆あの星は何色? ~星の色と温度の関係~

夜空には、赤、オレンジ、白、黄、青白など、色とりどりの星が輝いています。星の色は、その表面温度を表していて、温度が低いほど赤く、高いほど青白く見えます。この色の違いは、細かくスペクトル型*に分類されています。例えば、市街地でも見やすい星で比べると、こと座のベガは「A0型」約9,500度の白色、アークトゥルスは「K2型」で約4,200度のオレンジ色、さそり座のアンタレスは「M1型」で約3,500度の赤色です。ちなみに太陽は「G2型」で約5,800度の白色です。

※星の光は表面温度によりスペクトル(光がプリズムを通ったときに虹色に分かれて見える光の帯)の特徴が異なり、O型[高温]-B-A-F-G-K-M型[低温](各型は0~9で細分)というスペクトル型に分類されている。

ワンポイント~いま太陽がアツい!~

5月8日から11日にかけて、大規模な太陽フレアが立て続けに複数回起きた影響で、5月11日には日本でも低緯度オーロラが観測され話題となりました。約11年周期で活動している太陽は2024年にピークを迎えると予想され、活動のバロメーターとなる黒点も多く出現しています。右図は川口市立科学館で観測された今回の太陽フレアを引き起こした巨大黒点群の画像(5月23日午前10時頃)です。科学館ホームページや科学展示室では太陽望遠鏡で観測したリアルタイム画像を配信しています。



白色光部分像
川口市立科学館撮影